# 横芝の碑《その三十二》

## 兄弟揃って将軍
## 鈴木孝雄大将揮毫の碑

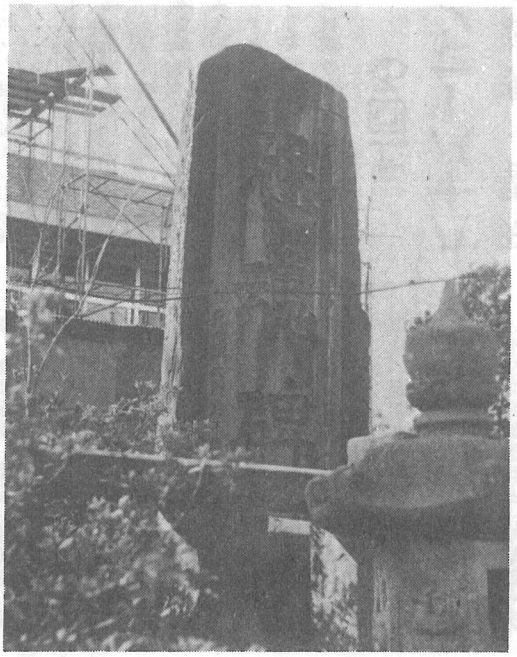
本紙十一月号で、役場前に建っている忠魂碑の題字は、鈴木貫太郎大将の揮毫によると紹介しました。これについて町原の或方から「大総会館の前に、貫太郎大将の令弟孝雄大将揮毫の碑が建っている」という連絡を戴きました。確か戦時中だったと思いますが、「千葉県出身の海陸両大将鈴木兄弟」という記事について、当時は総て陸軍優先で、必らず陸海軍と呼称されていた頃なので、「何故に海陸と、海を先にしたか」と、陸軍部から横槍が入り、海軍部は、兄君の方が海軍大将なのでそれでよいではないか」と、やり返すという、今から考えると全く馬鹿馬鹿しい様な問題が起きたこと等を思い出しながら、早速その場所を訪れて見ました。

両総用水第二機場を迂回する振子坂を上りきると、其処は、元大総村の中心地で、小学校、郵便局駐在所、農協等が集結しています。勿論大総村役場も此ここに在ったのですが、その後は大総会館となっています。その入口辺りの県道に面して建っているのが、鈴木孝雄大将揮毫という碑なのです。

根府川石らしい碑には、表面中央の、雄渾な忠魂碑という文字と元陸軍大将鈴木孝雄書、という文字が花押と共に彫深く刻まれ、又その背面には、日支事変・太平洋戦争等で国の礎となって散華された各英霊の氏名と、昭和二十九年一月大総村建立、という文字が刻まれています。

鈴木孝雄大将は、千葉県関宿藩士鈴木由哲氏の二男（長男は貫太郎大将）として、明治三十年十月二十九日に生れ、昭和二十五年陸軍砲兵少尉に任官、日清、日露の両戦役にも従軍して殊勲を樹て、後陸軍士官学校長、第十四師団長、陸軍技術本部長、軍事参議官等を歴任し、遂に陸軍大将正三位勲一等功三級に陞叙、兄弟揃って大将という奇蹟的な誇に輝いたのです。尚軍籍を退かれた後も、靖国神社宮司、大日本少年団長、階行会会長、文化育英事業を統理される等、一般社会人としても各方面に恆って活躍を続けておられましたが、昭和三十九年一月二十九日、九十六歳の高令をもって卒去されました。　戒名は輝徳院殿忠清至孝日雄大居士、墓は、鈴木孝雄家の墓、として関宿町実相寺の、兄君貫太郎大将の墓の近くに建っています。関宿町を訪れる人々の多くは、この大将兄弟の墓に詣でて「お二人揃って海と陸の大将に立身されたことは関宿町の誇りですね」と感慨深気に語って帰るということです。

ここで取材中「横芝の碑の取材ですか、ご苦労様ですね」と声を掛けてくれる人がありました。振返って見ますと、元大総郵便局長の吉岡常二氏でした。この方には役場時代からお世話になっておりますので、久濶を述べ、碑取材についての経緯や、建立が案外新らしいこと等をお話しますと、「町村合併のすぐ前に建てたものです、中台の石橋正夫さんが郷友会という元軍籍にあった人達の団体の代表ということで大分骨を折られたものです。確か揮毫のお願いにも石橋さんが行かれたと思います。除幕式には孝雄大将も出席して戴き、私の本家（吉岡　豊氏宅）に宿泊されましたがなかなか立派な方でした。」と、当時の模様を話して戴いたのです。吉岡常二氏の話について、石橋正夫氏は、「先だち、といわれますと恥しいのですが、吉岡局長さんのいわれる通りで、揮毫は、県知事さんを通じて自分がお願いに上りました。除幕式には大将の他に、県から知事さんと、地方課長さんも見えて、なかなか盛大でした。」と、附言されたのです。



近代設備の大総会館が建ち、学校も、郵便局も、そして農協等、総てが装いを一新してしまった今日、昔の面影を残すものは、ただこの碑だけであろうこと等を思い浮べますと、何となく、改めてこの碑を見上げたくなってくるのです。

○写真は、今年の一月撮影の碑で後の建物は完成間近い大総会館です。まだ足場が残っているのが見えています。（本稿取材に当り関宿公民館の小林先生、元大総郵便局長吉岡常二氏、当時の郷友会長石橋正夫氏の御協力をいただきました。）

（養護老人ホーム小沢所長寄稿）

自衛官募集
陸　海　空
国をささえる若い力
詳細は役場住民課まで